

本田技研工業(株)埼玉製作所寄居完成車工場を見学して

平成29年9月7日(木)に大里支部の役員研修会を開催しました。寄居町のカタクリ体育センターに集合し、バスで研修会場のホンダの埼玉製作所寄居工場へ向かいました。15分ほどで寄居町富田にある寄居工場のウエルカムセンターへ到着です。

入口からセンター内へ入ると、寄居工場で作られているフィット、ヴェゼル、グレイス、シャトルなどがショールームで迎えてくれました。オリエンテーションルームに入るとビデオや資料で寄居工場の特徴や世界での位置などの概要説明がありました。寄居工場は、東京ドーム約20個分にあたる約95万㎡の敷地で、生産施設(約22.3万㎡)より、緑地面積(約32.6万㎡)の方が広いという緑豊かな工場です。緑地保全と、野生動物の通り道まで配慮したビオトープ、調整池などが設けられ、環境に配慮されていました。生産施設は、プレス溶接棟、塗装棟、プラスチック棟、組立・検査棟と4つのセクションに分かれ、従業員数は約2000人。年間25万台、1日当たり1050台の車が2交代で送り出されています。

見学は工場内がとても広いのでバス移動です。私たちは2グループに分かれて、プレス溶接棟から組立棟へと進みました。説明の人に従ってプレス溶接棟を行くと、予想はしていたのですが、想像以上に人が少ないことに驚きました。溶接ラインは約400台のロボットが、軽快に溶接をこなしていきます。溶接に当たって、パーツ類の正確な位置決めにはカメラや測定機器が活用されます。ロボットが、見て、測って、考える革新的な工場でした。

次に回った組立棟では工員さんたちの姿が目に入りました。もちろんここでも効率化が進められ、前後サスペンションやタイヤの取り付けが自動化されていたり、必要なパーツが必要なだけラインサイドに供給されて、重いパーツは機械が保持してくれるようになっていました。

寄居工場は、確立した省エネルギー技術などの革新的な生産技術を今後、北米、南米、欧州、中国、アジア・オセアニアなど海外の生産拠点へ発信していく「マザー工場」なのだそうです。



ホンダ寄居工場見学後の研修会参加者



いただいた記念のキャップ